サイエンスインパクトラボ　Q&A

以前によせられたご質問に対する回答をまとめました。こちらにないご質問や、ご不安なことなどございましたら、本プログラム担当（下記、お問い合せ）までなんなりとお寄せください。

【サイエンスインパクトラボについて】
https://www.jst.go.jp/ristex/variety/co-creation/chance/sil/
※2024 年度の成果報告書のほか、成果発表会動画、プレゼン資料、プロトタイプの紹介動画がご覧いただけます。
※2023 年度以前の報告書等情報も、ご覧いただけます。

【お問い合せ】
chance@jst.go.jp

Q：ユニットとのマッチングはどのように決められるのでしょうか。
A：まず、研究者が参加申込をした後に、SIL の趣旨を直接ご説明したうえで参加意思を再確認します（30 分弱）。その際に、研究者の方から、大雑把に研究概要と今回テーマにしたいこと、ユニットメンバーに関する希望（立場や専門など）を伺います。いったん運営担当のロフトワーク社がその情報を持ち帰り、あらためて SIL でのテーマと、ユニットメンバーとしてアサインする方の具体をご提案します。
既存のユニットメンバーを研究者と合わせるのではなく、研究者それぞれに提案とアサインを行います。

Q：昨年度はいくつかユニットがあるようですが、マッチングされてつくられたユニットになるのでしょうか。
A：既存のユニットと研究者をマッチングするのではなく、研究者ごとにメンバーをリクルート、アサインしています。
アサインの前に、候補となる方を研究者の方にご提示してから、アサインを行いますので、研究上の権利関係などで差し障りがある方をアサインしてしまうことはありません。なお日程についてのご希望も最初に伺い、ワークショップ実施日を確定させてからリクルートを行い、全日程参加の原則の了解を得てアサインを行います。

Q：参加者として、「JST で採択されたプロジェクトで『共同研究者』と規定されている方」も含めているとのことですが、そのほかの研究参加者は残念ながら対象外でしょうか。
A：はい。申し訳ありませんが、研究代表および共同研究者以外の立場の方は、ご遠慮いただいております。

Q：研究者の方の反響（参加して実際にどのような点で役立ったかなど）があれば教えていただけますでしょうか。
A：成果発表会後に振り返りの際には非常にポジティブな感想をいただきました。3 回のワークショップがセットになっていることや、ユニットメンバーに当初想定していない属性や背景の方がアサインされたケースも含めて、ご自身の研究を見直したり、あらたな実装案を考えたりするよい機会になり、非常におもしろかったとおっしゃっていただきました。
具体的な成果について、振り返りの会などでいただいた感想等、報告書外の情報を補足します。

上道先生：
電力融通に関するゲームを、ユニットメンバーにボードゲームクリエーターをいれることで、市販レベルを目指したカードゲームのプロトタイプまで改良できた。現在の上道先生の所属先で、さらなる改良を目指すことになった。また、ユニットメンバーに品川区の災害対策計画立案に関わった人物がおり、プロトタイプによるワークショップ開催を目指すことになった。

牛島先生：
先生のご専門の関係から、技術シーズの実装という議論にはならなかったが、衛星画像（情報）利用に関する社会的な課題を、SF プロトタイピングという手法で、多角的に解消することによるメリットや必要性の洗い出しを行った。こうした手法の利用は初めてだったが、その有用性をご理解いただけた。また、成果発表会に参加したユニットメンバーではない参加者に、民間の衛生データの利用サービス企業の関係者がおり、その方とのネットワーキングと議論も成果となった。

高野先生：
メタバースについての分析研究は行っていたが、ユニットメンバーとなった居場所に課題を感じている当事者の方たちによるロールプレイングにより、これまでの研究の解像度があがることで、メタバース活用のメリットや課題についての再発見・再確認できた。

豊浦先生：
ご自身の研究成果についてすでにシーズとしてプロモーションをなさっている段階だったため、技術の改良等のようなことはなかったが、ユニットメンバーとの議論で、シーズの利用先を人間に限らず、生態系モニタリングに使うという新たな発想が得られたことを成果としてあげていた。

Q：研究者の立場と SIL の関係：費用負担はありますか。
A：SIL は、JST ですでに採択されている研究の一部を支援（特に社会実装という観点）するという枠組みであるため、謝金はご用意しておりません。ただし、対面での活動に参加いただく場合は、RISTEX 社会連携 G が、旅費謝金を負担いたします。

Q：研究者の時間・作業負担はどのくらいですか。
A：いずれも 2 時間程度となりますが、原則、オリエンテーションと 3 回のワークショップ（成果発表会含む）、参加者交流会のすべての回にご参加いただきます。またオリエンテーションでは、すでにお手持ちの資料をお使いいただき、先生のご研究をユニットメンバーにレクチャー（昨年は 20 分ほど）いただくことがございます。
このほか、当初に参加のご意思確認のためのヒアリング（30 分程度の zoom MTG）、ユニットメンバーや日程の調整（基本的に Slack または zoom での短時間 MTG）、発表会資料や活動成果報告書の内容ご確認（作成はユニットのファシリテーター等が行い、メールや Slack で確認）を、お願いすることになります。
議論が発展した結果、上記以外に、ラボ見学やユニットメンバー以外の方を招いての座談会（過去にありました）をなさったり、それぞれのイベントに招待したり、参加しあったりすることを制限するものではありません。

Q：対面による活動は参加者交流会だけですか。
A：参加者交流会と Day2 のワークショップを対面による同日開催とする予定です。場所は都内（23 区）です。成果発表会前のワークショップを対面で行い、交流会でのユニットを越えた各ユニットのとりくみにフィードバックすることにより、成果発表会の内容の完成度を高めることねらっています。

Q：日程はどのように決まるのか。
A：お申し込みをいただいた後、個別に 30 分程度で、SIL のご説明と、ご研究やテーマやユニットメンバーに関するヒアリングを行います。同時にワークショップについて、調整可能なお日にちのヒアリングを行い、オリエンテーション（Day 0 の

ワークショップ）含む全日程の実施日を決めて、ユニットメンバーのリクルートとアサインを行います。研究者の方のご都合を最優先しつつ、日程を都度ではなく当初に固めることで、ユニットメンバーのプログラム途中での離脱を防ぎます。

Q：プログラム終了後のタスクあるいはフォローアップはありますか。
A：特段のタスクはございません。フォローアップとして、プログラム参加者全員による Slack は、翌年度いっぱいご利用いただけるようにいたします（JST が管理しています）。研究者の方だけでなく、ユニットメンバーとして参加いただいた方々どなたでも、その後のご活動の報告や告知や、新しい活動への協力よびかけなどにご利用ください。また、成果発表会への参加者からのお問い合せの仲介や、JST-RISTEX でお役に立てることがないかの伺いなどをいたします。Slack には JST 担当者も参加しておりますので、なにかお困りのことがございましたら、Slack でお問い合せいただいても構いません。